

## 日本語

外からの影響と内からの革新が豊かに混在

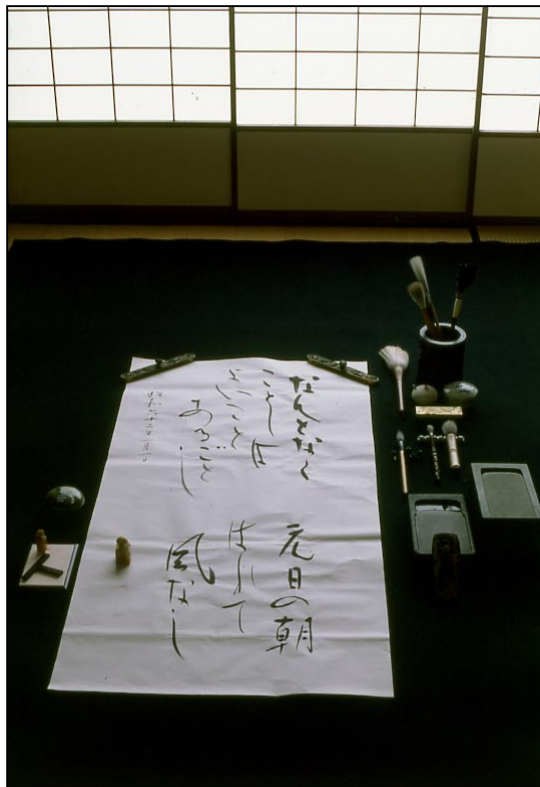
### はじめに

日本には1億2,000万人以上の人に住んでいますが、言語面では同質な国であり、人口の99パーセント以上が同一の言葉を話しています。日本語は話者が世界で6番目に多い言語なのです。しかし、日本国外ではほとんど話されていない言語でもあります。

日本語の起源については多くの説があります。学者の通説では、日本語は文の構造から見ると、トルコ語やモンゴル語などのアルタイ系の言語に近く、韓国・朝鮮語に類似していることが広く認識されています。また、形態論と語彙は、先史時代にマレー・ポリネシア語とその南方の言語の影響を受けたことが明らかにされています。

日本語の書記体系は中国を起源としていますが、日本人と中国人が話す言葉は互いに全く異なります。中国の書記方法が5世紀から6世紀の間に導入された後、二つの音標文字（平仮名と片仮名）が、中国の文字を変化させて作られました。

地方では現在でも多くの方言が話されています。東京の話し言葉を基準とした標準日本語は、ラジオやテレビ、映画などのメディアの影響で、次第に国全体に広まりました。しかし、京都や大阪をはじめとする地方の方言も、今なお優位を保ちながら広く使われています。



書道  
毎年1月2日に行われる  
書初めのため、筆、墨、そ  
の他の書道具がきれいに並  
べられている  
© Kodansha

### 音韻論

スペイン語とイタリア語を話す人々は、日本語の短母音であるア・イ・ウ・エ・オの発音がそれらの言語の母音とよく似ているのに気づくと思います。長母音のアー・イー・ウー・エイまたはエー・オーは短母音の長さを2倍にして発音します（ただしエイはしばしば二つの母音として発音されます）。短母音と長母音の区別は重要で、これを混同すると言葉の意味が変わってしまいます。

子音はアルファベット表記で、*k, s, sh, t, ch, ts, n, h, f, m, y, r, w, g, j, z, d, b, p* があります。摩擦音の *sh* (英語の “shoot” に含まれる音) は、破擦音の *ch, ts, j* (それぞれ英語の “charge”, “gutsy”, “jerk” に含まれる音) とともに、単一の子音として扱われます。*g* の音は常に英語の “game” の *g* で、“gene” の *g* として発音されることはありません。

英語との主な違いは、日本語には強勢アクセントがないことで、各音節にかかる強勢は同じです。また英語では音節が引き伸ばされることがありますが、日本語では一連の音節はメトロノームのように定間隔で発音されます。しかし英語と同様、日本語にも高調と低調のアクセントの違いがあります。

## 文法

基本的構造について言えば、典型的な日本語の文章は、主語・目的語・動詞の型を持っています。例えば、「太郎がリンゴを食べた」を、語の順序を変えずに英訳すれば、“*Taro an apple ate.*” となります。




日本語ではしばしば、主語や目的語、またその両方が省略されることがありますが、それは、文脈から明らかだと感じられる時、つまり、話し手や書き手が、聞き手や読み手がすでに話題となっている状況についての一定の情報を持っていると確信している時に起こります。このような場合には、上記の文章は「リンゴを食べた」(“ate an apple”) や、ただ単に「食べた」(“ate”) となります。

日本語は英語と異なり、語の順序が文中の名詞の文法機能を示すということはありません。また他の言語のように名詞が語形変化することはありません。代わりに文法的機能を指示するのは名詞に続く助詞で、特に重要なのは、「が」、「は」、「を」、「に」、「の」で、とりわけ「は」は、文の主題を示す助詞として重要です。

日本語の動詞は人称や単複の違いで変化することはありません。現代日本語では、全ての動詞は辞書に載る形はウ音で終わります。

目  →  →  → 目

鳥  →  →  → 鳥

川  →  →  → 川

漢字

安 → あ → あ

以 → い → い

宇 → う → う

衣 → え → え

於 → お → お

平仮名

### 文字の発展

左にある図は、絵画的表現から漢字への発展を示している。また右の図では、漢字から平仮名への発展が示されている。

す。動詞「食べる」は英語では “to eat” を意味するといわれますが、実際はこれは現在時制であり、“eat/eats” もしくは “will eat” を意味します。その他の活用形は、「食べない」、「食べよう」、「食べる時」、「食べれば」、「食べる」、です。

## 書き言葉

中国人は漢字という表意文字を使って全てを表記しますが、日本人は仮名と呼ばれる二種類の音標文字を編み出し、漢字とともに用いています。さらに書き言葉にはアルファベット (IBM などの頭字語、製造記号、外国語の単語全体) が加わることもあり、現代日本語を書くには全部で 4 種類の文字を使うことが必要となります。

日本語で漢字と呼ばれる中国文字は、表意文字であり、それぞれが事物や考えを表わす記号です。一つの漢字が複数の音を持つことはよくあります。日本では漢字は中国起源の語と固有の日本語の両方の表記に使われます。

音節文字の仮名には二種類あります。一つは平仮名と呼ばれ、その昔は、主に女性が用いていました。平仮名は 48 文字あり、固有の日本語・助詞・動詞の語尾を表記するのに用いられ、また常用漢字では表記できない中国からの借用語を書く際にも、しばしば用いられます。

もう一つの仮名は片仮名で、これも 48 文字あります。これは主に中国語ではない言語からの外来語を書く時や、強調用、擬音の表記、動植物の学名表記などに使われます。

二つの仮名文字はいずれも、そのもととなった漢字よりも書くのは簡単です。

収録語数の多い日本語辞書には 5 万もの語が含まれますが、日常的には使われる語数はもっと少数です。1946 年に文部省は一般的・公式的に用いることのできる常用漢字 (当用漢字) を 1,850 字と定め、そのうち 996

字が義務教育で習う学習漢字とされました。この常用漢字表は1981年に修正され、ほぼ同じ中身で語数が幾分増えた1,945字の新常用漢字が定められました。しかし、新聞以外の出版物はこの制限を受けず、また日本語読者の多くは、公立学校の標準的カリキュラムで習うよりもはるかに多くの漢字の意味を理解しています。

日本語は習慣的に縦書きであり、上から下へと読めます。文章はページの右側から始まるので、通常の書籍は、欧米言語の本では裏表紙に当たるところが表紙になります。ただし例外は学術・技術関係など特殊なテーマを扱った本や雑誌で、横書きに印刷され、左から右へと読みます。最近では、横書きの印刷物が増えており、これらの読み方は欧米のものと同じです。

## 外来語

日本語には日本固有の言葉が豊富にあるばかりでなく、中国に起源を持つ言葉も多くあります。中国語からの外来語の多くは、今日、日常語の中であまりにも大きな部分を占めており、外国起源のものだと認識されていません。中国からの文化的な影響は何世紀にもわたり、知的・思想的な文章で使われる言葉の多くは中国語がもとになっています。19世紀後半から20世紀はじめにかけて、西洋から新しい概念が導入されると、しばしばそれは、漢字を組み合わせた新しい言葉で翻訳されました。これらの言葉は、現代の日本で使われる知的な語彙の大部分を占めています。

こうした中国からの外来語に加え、英語やその他のヨーロッパ諸語からの外来語も多くあります。外来語の流入は現在も続いており、欧米の言葉をそのまま用いることも一般的となってきました。例えば、「ボランティア」や「ニュースキャスター」などです。また日本語には、夜間試合を表わす「ナイター」や、給料を受けている労働者を表わす「サラリーマン」などの擬似英語もあります。このよう

な傾向は近年著しく強まっています。

海外に「輸出」された日本語の数は、「輸入」された外来語の数よりもはるかに少ないのですが、現在は多くの日本語が他の言語でも頻繁に使われるようになりました。英語の中の例を挙げれば、「アニメ」、「ドージョー」、「フトン」、「ゲイシャ」、「ハイク」、「ハラキリ」、「ジュードー」、「カイゼン」、「カミカゼ」、「カラオケ」、「カラテ」、「キモノ」、「マンガ」、「ニンジャ」、「オリガミ」、「ローニン」、「サケ」、「サムライ」、「サシミ」、「サヨナラ」、「ショーグン」、「スードク」、「スモー」、「スシ」、「テンプラ」、「ツナミ」などがあります。

## 敬語

日本人は、話し手の聞き手に対する尊敬を表現するのに用いる、敬語の体系を発達させてきました。敬語には様々なレベルの話し方があり、敬語に通じた話し手は、ちょうど望ましい程度に丁寧な表現をするための、言葉や表現の選択肢を幅広く持っています。単純な文章も、聞き手に対する話し手の相対的な立場に応じて、20以上の異なる仕方で表現することが可能です。

どの程度の丁寧さが適切であるかを判断するのは、面白くかつ困難なことです。なぜならば、相対的な立場とは、社会的地位、身分、年齢、性別、恩義の有無といった様々な要素の複雑な組み合わせによって決まるからです。しかし、二人の人間が初めて会い、互いにどの集団に帰属するのかかわからず、とはいえ、社会的な立場は類似していると感じられる（つまり服装やマナーに明らかな違いがない）場合に用いられる、中立的・中間的なレベルの語法もあります。一般的に、女性は男性よりも丁寧に話し、またそれを状況ごとに変えることがあまり多くないという傾向があります。

敬語を習得するのは決して容易ではなく、日本人の中で上手に扱える人もいれば、そうでない人もいます。敬語表現で使われる言葉は、名詞、形容詞、動詞、副詞と、様々な部

分においてほとんど無数にあります。いわゆる尊敬語は、聞き手自身や聞き手に直接関係する親族や家、所有物に言及するときに用いられます。逆に、謙譲語は、話し手が自分自身や、自分に関係したものに言及するときに用いられます。これら二つの対照的な話し方が生み出す距離によって、聞き手を敬う適切な態度が表現されるのです。

## 人名

日本人には姓と名があり、姓・名の順で用いられます（ただし日本の英字新聞や雑誌では、通常、名を先にした欧米型の順序で表記されます）。他人の名前を呼ぶときには、「さん」（Mr. や Mrs. または Ms. に相当する）を姓の後に付けるのが普通です。「ちゃん」は子供の名前や、親しい友人の名前によくつけられます。その他の「先生」や「博士」などの称号も姓の後につけられます。

子供の命名には、その子が幸運であることを願って、意味としての縁起の良さや幸福を連想させる名と漢字が選ばれます。政府は人名に用いることのできる漢字として、合計 2,928 字（2004 年 9 月 27 日）を認めています。

## タイプで打つ日本語

日本語のタイプ打ちは、かつては大がかりな機械を用いて行われていました。しかし

1978 年に日本語のワードプロセッサ第一号が販売され、キーボードを使って日本語を発音どおりに印字することができるようになりました。日本語をワープロソフトでタイプする場合、仮名文字またはローマ字（アルファベット）を用いることができます。IME の日本語入力システムが発音にマッチする文字を表示し、ユーザーがそこから適当な文字を選ぶ仕組みです。

携帯電話を使い、E メールやインスタントメッセージングでテキストメッセージを送り合うのが、日本の特に若者たちの間では非常に盛んです。携帯電話上の小さなキーを使ったテキスト入力、主に親指で番号ボタンを複数回押し、表示される仮名文字の中から特定のものを選ぶという方法でなされます。仮名文字が選択され入力されると、必要に応じて漢字に変換されます。コンピュータをベースとしたメッセージングでは、すでに省略形や短縮語、記号が頻繁に使われる傾向があり、これが携帯のメッセージングをさらに普及させています。日本の携帯電話には様々な感情を表わす独自の顔文字が多数あり、また、語や慣用句に代わって携帯メッセージに容易に組み込める絵文字も多数あります。

子供たちが携帯電話やパソコンを通じた短いテキストメッセージでコミュニケーションを取りながら成長して大人になり、職場に入って、年長者たちの躰躰を買いながらも日本語の書き方を変化させています。